

ピアノを弾こう! 教室訪問 PART 2

最終回

子どものレッスン、大人のレッスン、さて今回は?

生徒の音楽人生を左右する、 導入期教育の大切さを日々痛感

本連載もついに最終回。神奈川・横浜市の「都筑ふれあいの丘センター」で教える五十嵐瑞恵先生のレッスンを取材した。生徒は、この教室に通い始めて約1年半の相川智佳ちゃん(小1)。導入期のピアノレッスンの大切さに改めて気づかされた。

今月のピアノ教室 神奈川県・横浜市
都筑ふれあいの丘センター



駅近くにあつてアクセスが良い教室。ウッディなロビーは広くゆったりとしていて、落ち着きがある。個人レッスンとグループレッスンを含め、20コースを開講している。体験レッスン・レッスン見学も受付中。神奈川県横浜市都筑区葛ヶ谷7エスタスクエア1F / 最寄り駅は、横浜市営地下鉄グリーンライン「都筑ふれあいの丘駅」から徒歩2分。連絡先は山響楽器店 ☎045-942-0421 まで。



「NEWピアノスタディ2」がもうすぐ終わるよ

体験レッスンの時に耳コピで覚えた映画『アナと雪の女王』のテーマ曲を弾いた智佳ちゃん。「音感がとても良い」と、五十嵐先生。

さあ、レッスンしましょう!

今月の先生と生徒

五十嵐瑞恵先生

いがらし・みずえ ● 幼い頃よりヤマハ音楽教室に通う。音楽学校を卒業後、山響楽器店に所属しピアノ講師に。出産を経て、現在1児の母。週3日の稼働で、幼児から大人まで約20名の個人レッスンを行っている。東日本エリアPSTA講座スタッフ。

あいかわともか
相川智佳ちゃん(小1)

この夏、教室に通うようになって初めての発表会では、「アラベスク」と「あさつゆ」を演奏。ちょっと背伸びした課題も、「体いっぱい元気な演奏」を披露した。家での練習は夕食のあと。得意な科目は国語だと教えてくれた。



小さい子どものコンディションの把握も大事。「今日は元気かな、眠いかなと観察しながら対応を変えます」

五十嵐瑞恵先生のレッスン流儀 ピアノ以外の楽器や音を取り入れて、 たくさんの音楽を聴かせること

子どもの変化や成長に 気づいてあげたい

指慣らしの音階練習から始まったレッスンで、「いとまきのうた」「おともだち」など智佳ちゃんは次々と曲を弾いていく。前回からの宿題だった「ビーチパラソルのわすれもの」には、少し寂しい曲調を理解してもらおうと五十嵐瑞恵先生が歌詞を創作。歌ったあとの智佳ちゃんの演奏には、切ないニュアンスがしっかり表現されていた。導入期のレッスンでは、少し高めのテンションで子どもたちにわかりやすく伝えるなど、細やかな工夫を重ねている。

五十嵐先生は、楽しかった自らの幼児期のレッスンがきっかけでピアノの先生を目指した。「こんなに楽しいことがあるのかと思って。お昼寝も忘れてピアノに没頭したことを今でも覚えています」



↑真剣な表情で「いとまきのうた」を弾く智佳ちゃん。→課題をクリアするたびに、五十嵐先生とハイタッチして、次のステップへ。

*伴奏くん…レッスン時に使用するミュージックデータプレーヤー。

そんな自身の経験も踏まえて、白紙の状態で入ってくる生徒の導入期教育の大切さを実感する日々。心がけているのは、子どもがレッスンに夢中になれること。そして、できるだけたくさんの音楽を聴かせて、子どもの少しの変化や成長を見逃さないこと。

レッスン中に「伴奏くん」(*)の音源と合わせたり、打楽器を積極的に取り入れたりしているのも、「さまざまな音に触れてほしい」から。「初期の生徒にはピアノの音はもちろん、



レッスン中にたくさんの音楽が流れるようにしています」

また、子どもの変化や成長に敏感であることも重要なポイントだ。生徒は頑張っているつもりでも強弱の変化などをすぐにできないことも多い。そんな時にも否定せず、「子どもなりに努力している気持ちを見逃さないようにすることが大切です」

レッスンは生徒の音楽人生を変え



五十嵐先生の歌詞で「ビーチパラソルのわすれもの」を歌う智佳ちゃん。曲調を理解してもらったための工夫だ。



レッスン中にタンブリンやハンドベルなどさまざまな楽器に触れながらリズム感も養う。



宿題ノートにはその日のレッスン内容や予習復習のポイントを書き込んで、保護者への連絡も兼ねている。



るかもしれない。大きな責任感を胸に生徒たちと向き合う先生方の努力を間近に感じた連載だった。